




# 3 セグメント別詳細情報 - エネルギーソリューション&マリン


## 2024年度実績（前期比）


**受注高**  防衛省向け潜水艦やLPG/アンモニア運搬船の受注増加などにより増加  
+1,403 億円


**売上収益**  国内向けごみ処理施設や防衛省向け艦艇用機器の増加などにより増収  
+448 億円

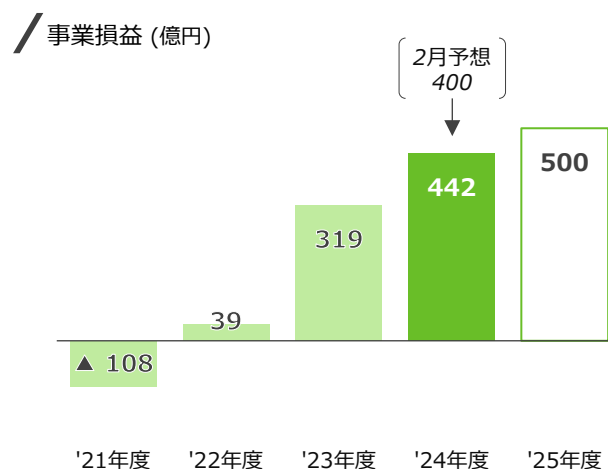
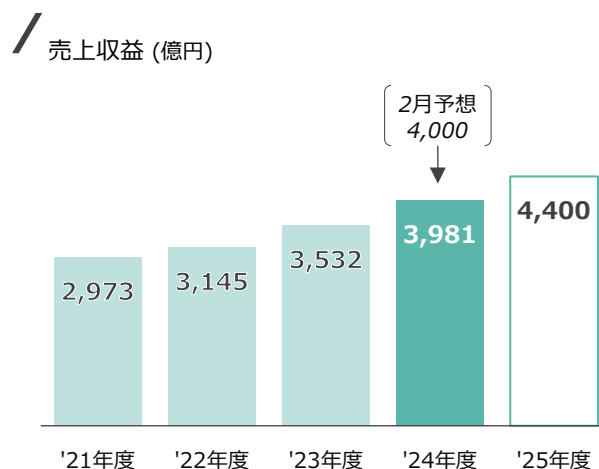
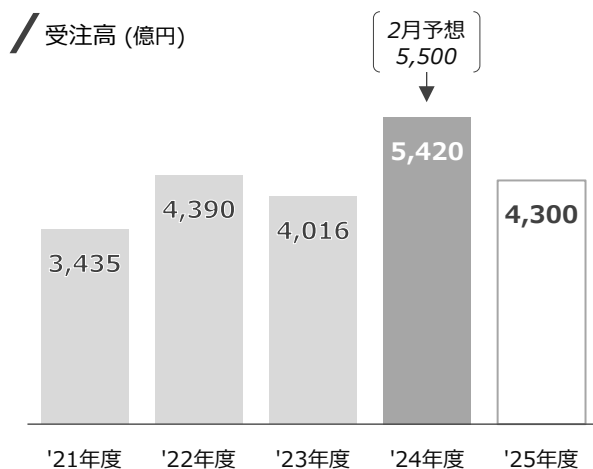
**事業利益**  増収や持分法投資利益の増加などにより増益  
+123 億円

## 2025年度予想（前期比）

**受注高**  防衛省向け潜水艦やLPG/アンモニア運搬船の減少などにより減少  
▲1,130 億円

**売上収益**  LPG/アンモニア運搬船の増加などにより増収  
+419 億円

**事業利益**  増収などにより増益  
+58 億円



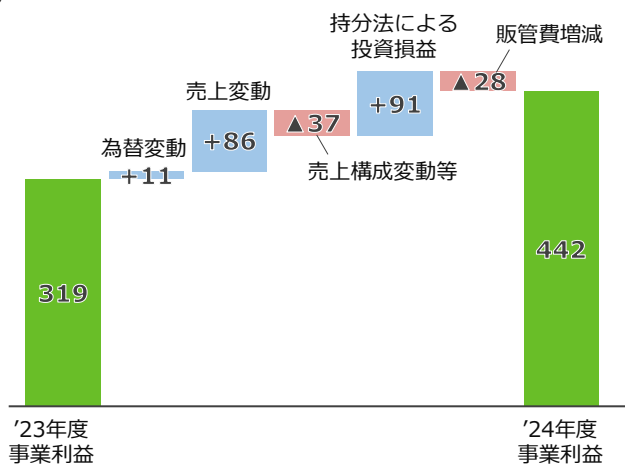
# 3

## セグメント別詳細情報 - エネルギーソリューション&マリン

(単位：億円)

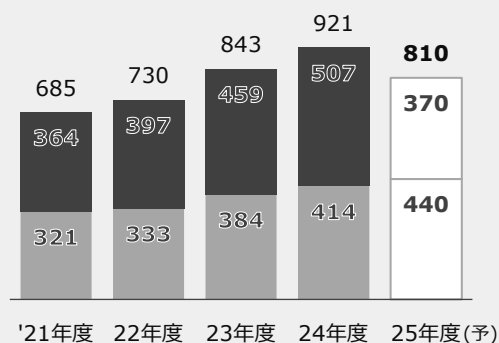
	'23年度	'24年度				'25年度	
	実績	2月予想	実績	前期比	2月予想比	予想	前期比
受注高	4,016	5,500	<b>5,420</b>	+ 1,403	▲ 80	<b>4,300</b>	▲ 1,120
うち エネルギー・プラント・船用推進	3,588	3,400	<b>3,544</b>	▲ 44	+ 144	<b>3,300</b>	▲ 244
船舶海洋	427	2,100	<b>1,876</b>	+ 1,448	▲ 224	<b>1,000</b>	▲ 876
売上収益	3,532	4,000	<b>3,981</b>	+ 448	▲ 19	<b>4,400</b>	+ 419
うち エネルギー・プラント・船用推進	2,606	3,100	<b>3,068</b>	+ 462	▲ 32	<b>3,200</b>	+ 132
船舶海洋	925	900	<b>912</b>	▲ 13	+ 12	<b>1,200</b>	+ 288
事業利益	319	400	<b>442</b>	+ 123	+ 42	<b>500</b>	+ 58
[利益率]	[9.0%]	[10.0%]	[11.1%]	[+ 2.0pt]	[+ 1.1pt]	[11.4%]	[+ 0.2pt]
うち 持分法投資利益	137	225	<b>229</b>	+ 91	+ 4	<b>245</b>	+ 16

### 事業損益増減要因 (億円)

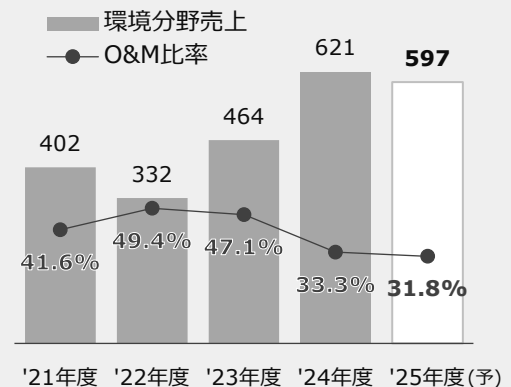


### 補足情報

エネルギー事業における主要製品の売上 (億円)  
(上段：機器関連 下段：アフターサービス)



プラント事業における環境分野の売上 (億円)

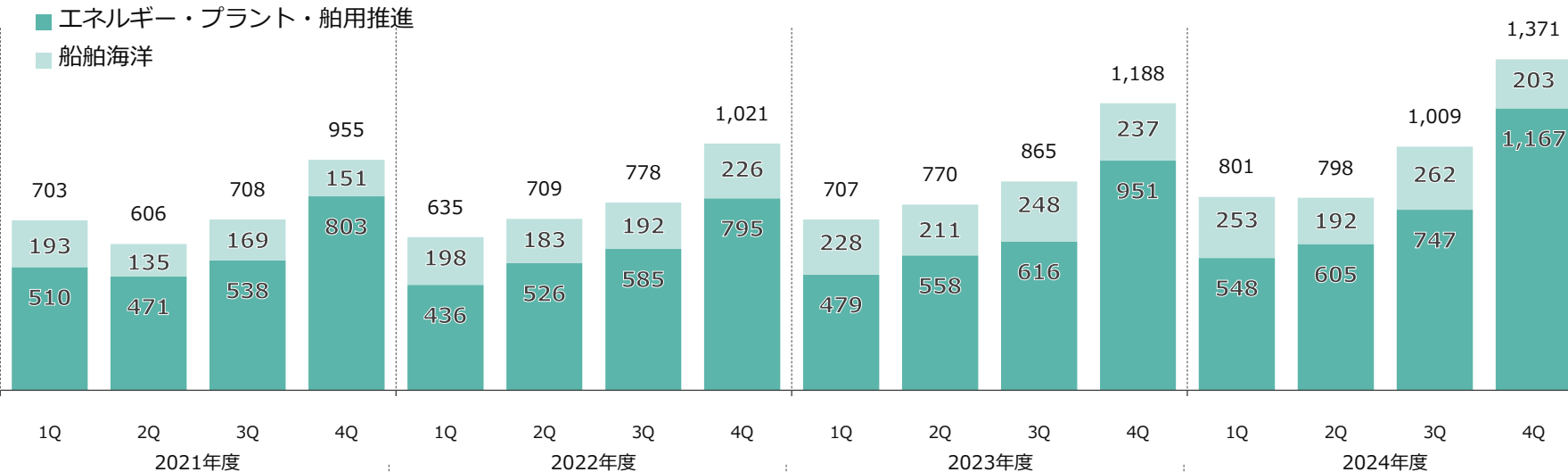


# 3

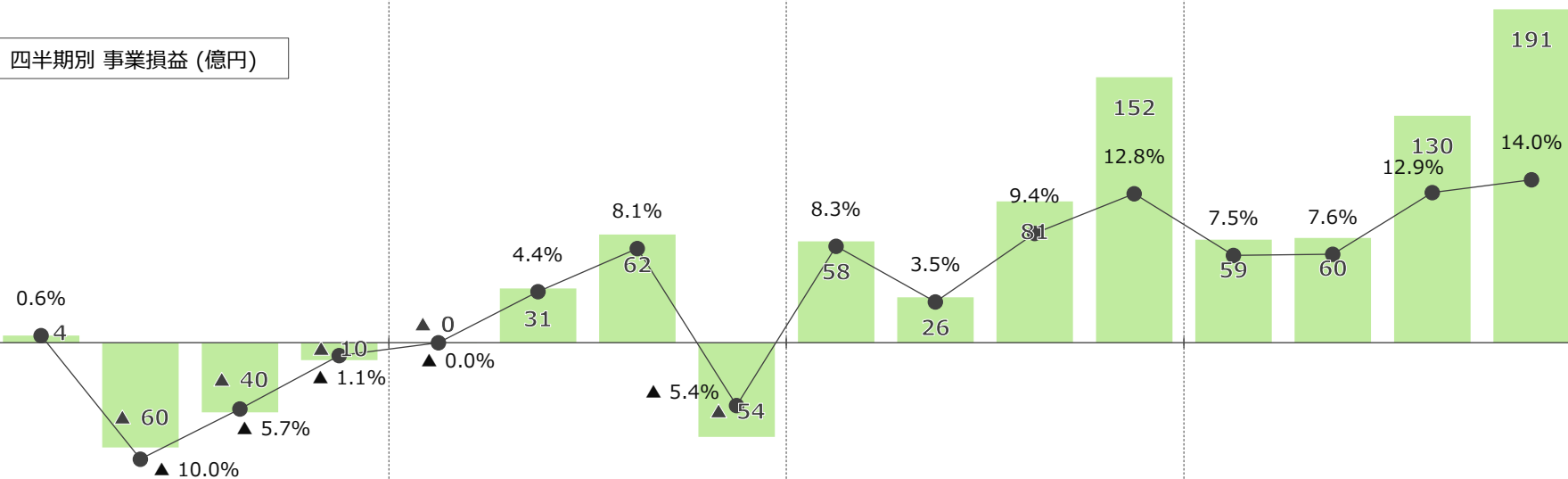
## セグメント別詳細情報 - エネルギーソリューション&マリン

四半期別 売上収益 (億円)

(注) 過年度実績は変更後の報告セグメントに組替えて表示しています



四半期別 事業損益 (億円)



# 3 セグメント別詳細情報 - エネルギーソリューション&マリン

## 事業環境・受注動向

### ● エネルギー・プラント・船用推進

国内	海外
<ul style="list-style-type: none"> <li>- 分散型電源の根強い需要</li> <li>- ごみ焼却設備の老朽化更新需要の継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 新興国では分散型電源等のエネルギーインフラ整備需要が根強い</li> <li>- 先進国では水素関連の受注・引合いが増加</li> </ul>

### ● 船舶海洋

商船	艦艇・特殊船
<ul style="list-style-type: none"> <li>- 造船各社は当面の船台を埋めており、商談は先物納期が中心</li> <li>- 建造コストの上昇や船台需給ひっ迫により船価は高値継続傾向</li> </ul>	潜水艦は安定的な受注

### ● セグメント全体

リスク	カーボンニュートラル
<ul style="list-style-type: none"> <li>- 米国関税政策の影響による物流・為替動向</li> <li>- 原材料価格や資機材・燃料費、人件費の継続的な上昇等</li> </ul>	当社が強みとする水素製品をはじめ、KCC※などの脱炭素ソリューションに関する問い合わせや協力要請が増加

※ Kawasaki CO<sub>2</sub> Capture : CO<sub>2</sub>分離・回収システム

## 重点施策と具体的な取り組み

### ✓ 低炭素・脱炭素社会の実現に貢献する製品・サービスの提供

#### 事例

淡路広域行政事務組合向け  
新可燃ごみ処理施設をDBO方式※1で受注



(完成イメージ)

#### Point1

改良型自動燃焼制御技術、AI運転支援システムによる安定処理と遠隔監視システムによる継続的な運転支援を実現

#### Point2

高効率発電により一般家庭の年間使用量約3,400軒分に相当する余剰電力を売電し、積極的な**クリーンエネルギー※2の利活用**に貢献

※1 DBO方式 : Design (設計) Build (建設) Operate (運営)  
※2 都市ごみ中のバイオマス比率は約50~60%であり、そこから得られた電力はカーボンニュートラルと扱われる

### ✓ 脱炭素ソリューションの提供へ向けた取り組み

#### 事例

世界初

水素液化プラント向け遠心式水素圧縮機の実証設備建設に着手 (25年2月)



遠心式水素圧縮機  
「KM Comp-H<sub>2</sub>」

#### Point1

新開発のインペラ(羽根車)を用いた超高速回転技術により、**従来技術による水素圧縮機を大幅に上回る昇圧性能を実現**

#### Point2

遠心式を採用することで大流量化を実現し、必要とする設置面積を**従来との圧縮機比較で7分の1まで削減**



実証設備全体図  
(完成イメージ)